

## 問

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

患者にとって良い医療と、医療提供者にとって良い医療は違う。日本はこれまで患者にとって良い医療を追求してきた。いつでもどこでも最善の医療を受けられることは国民にとっての願いである。医療へのアクセス性は日本人にとって当たり前のもので定着している。しかしながら、医療の高度化や高齢化に伴う医療需要の増加に伴い、社会保障費は増加の一途であり、これまでと同じモデルで医療を提供していくことには既に限界が来ている。医療従事者の長時間労働や自己研さんによって成り立ってきた日本の世界最高水準の医療をどのように維持していくのだろうか。

一方、米国では、患者にとって良いシステムというよりも医療提供者にとって良いシステムが確立されてきた側面がある。医師に目を向ければ、指導医になれば病棟業務や処置業務の基本的な雑務の負担は大きく軽減される上、多職種チームの存在によって、医師業務の専門性に特化した仕事に集中することができる。医師がマルチタスクの中で息を切らしながら業務を行うのではなく、ゆとりをもって患者さんに対峙することが可能だ。

米国と日本では、当然ながら医療インフラ、経済事情も異なるため単純な比較はできないものの、医療に投下されているコストには大きな隔たりがあり、ただ米国追従をしても同じようなシステムを日本で実現することは難しい。そもそも無い袖は振れず、日本の国力に合った身の丈サイズの医療を展開するほかない。これまでは医療従事者の労働時間やワークエンゲージメント、利他的精神に支えられてきたものが、時代と共に変わる医療従事者個人の仕事への価値観や働き方改革によって一気に崩れかかっている。

医師の働き方改革を進めていく中で、病院へのかかり方改善が叫ばれている。夜間や休日における不要不急の受診を減らしたい思惑だ。以前は「コンビニ受診」ともやゆされた。厚生労働省を中心に2020年度から上手な医療のかかり方プロジェクトが開始され、救急車の適正利用や救急受診に悩んだ際の#7119の利用などが啓発されているが、国民のかかり方が変わってきたと実感できるには至っていない。

働き方改革の講演をすると、よくある指摘に「患者さん、市民、国民の受診のあり方をもっと改善するような取り組みをすべきだ」というものがある。国も自治体も、各医療機関も一部ではこうした適正受診に関する啓発を行っている。しかしながら、これを推し進めるのにはやや懸念や違和感もある。そもそも、病気になっていない人たちへ、かかり方の取り組みをしても啓発の適時性が伴わないため効果のほどに疑問が湧く。健康行動に関する意識変容はすぐさま行動変容につながらないことは、過去の研究でも多く指

摘されている。こうした啓発は重要であるが、どこまで受診行動の「自粛」を促すかは非常に悩ましい。

インフルエンザ感染が猛威を振るう今、ウオークイン救急患者を受け入れる一次、二次救急医療機関はパンク状態だ。ただでさえ急性期病院の救急体制は限界ぎりぎりで行っており、この脆弱性は新型コロナ感染のパンデミックを乗り越えてもなお、解決していない。一方、働き方改革によって、夜間業務を宿日直許可基準相当に抑える場合は、急性期病院の夜間診療密度を下げざるを得ない。実際に患者さんが病院に電話しても簡単に受診を促されるのではなく、「まずは近くへ」「一旦様子見て」という対応も増えてきており、「病院へのかかりにくさ」を感じている声も少なくない。これは日本式医療、つまり「どこでもいつでも皆保険制度の下に安心して医療機関にかかれる仕組み」が音を立てて崩れていく前兆ではないか。

患者さんは常に不安だが、自分自身で症状を適切に判断することは難しい。我々医療者も「その症状だったらもっと早く言ってくれれば」などと一度は言ったこと、聞いたことがあるだろう。患者層が高齢化し、核家族や独居者も増える中、どのレベルでセーフティーネットを置くのが良い塩梅か。本来患者の訴えをきちんと評価するには、診察が必要だ。患者は医療のプロではないから、適切に症状を訴えられないかもしれない。安易な問題の先送り、後手に回るようなことがあってはならない。

現場は疲弊しきっている。医療のサステナビリティを考えたとき、この理想論と現実のはざま、一定の妥協を容認せざるを得ない局面に来ているのかもしれない。

これまで、先人たちが作り上げてきた「アクセス」「質」「コスト」の調和を、これ以上保っていくことは難しい時代に入ってきた。私たちは今、日本式医療の歴史的転換点を迎えている。このままこれまでの理想を追い続けるのか、はたまた何かを犠牲にしていく道をたどるのか。この岐路に立たされたあなたは今、目の前の患者さんにどのような医療を提供しますか？大きな命題が突き付けられているのだ。

(鈴木 幸雄「急性期病院の悲鳴と忍び寄る医療アクセスの低下」  
(日経メディカル 2025年2月6日))

問Ⅰ

日本の医療が現在抱える問題を、その問題が生じてきた背景、今後起こり得る影響も含めて 400 字以内で説明しなさい。

問Ⅱ

それら問題を解決するためにはどうすればよいか、あなたの考えや知識を交えて 600 字程度で述べなさい。